西の湖へ放流したワタカの標識放流調査

根本　守仁

◆背景・目的

琵琶湖固有種であるワタカは、資源が著しく減少しており、2002年度から種苗生産放流を実施している。そして、その効果の把握を目的として、標識種苗調査を実施している。ここでは、ワタカ放流魚の混獲状況および放流魚の成長について報告する。

◆成果の内容・特徴

- 西の湖へのワタカの放流は例年3月に実施しており、約8ヶ月間養成した体長約30mmの種苗を2003年度には142,700尾、2004年度には623,400尾、2005年度には332,200尾、2006年度には161,700尾を放流した。標識方法は ALC標識とし、2004年度以外は全数に標識を施した。
- 標識放流調査は、2006年6月～2008年3月に、西の湖内や琵琶湖で漁獲されたワタカ1,275尾について分析した。
- ワタカの生産年度別の放流魚の混獲状況について、2003年では48.80％、2004年では76.92％、2005年では87.93％が放流魚であった(表1)。
- 放流魚の成長について、3月に体長約30mmの種苗を放流したが、再捕時点での平均体長は放流後3ヶ月では72.55±8.71(平均値 ±標準偏差)mm、4ヶ月後では100.62±8.17mmであった。また、11月～翌年1月に漁獲されたワタカの体長について、どの年齢においても雌雄で有意な差がなく、1歳魚では150.42±15.50mm、2歳魚では212.37±16.19mm、3歳魚では221.76±7.90mm、4歳魚では242.69±13.19mmであった(図1)。

◆成果の活用・留意点

ワタカの天然資源は著しく減少しており、種苗放流がワタカ資源に与える効果が高いと考えられた。また、本事業ではワタカ種苗を放流することによる水草繁茂の抑制効果を推定する計画であり、生残率についても求めていく。

表1 ワタカ放流魚の誕生年別混獲状況

誕生年	調査尾数（尾）	再捕尾数※（尾）	混獲率（%）
2000	2	0	0.00
2001	1	0	0.00
2002	12	0	0.00
2003	209	102	48.80
2004	286	220	76.92
2005	762	670	87.93
2006	3	3	100.00
合計	1,275	995	78.04

※ 標識率で補正後の数字を示した

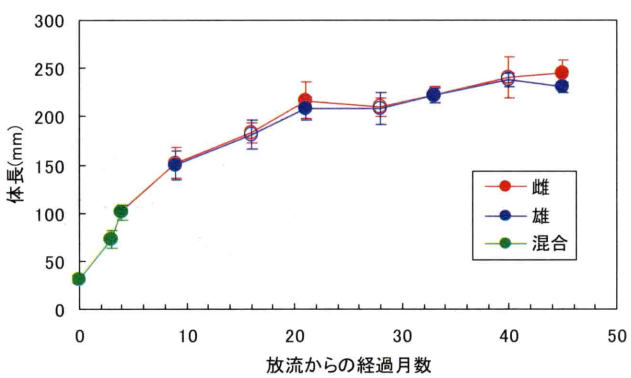

図1. ワタカ放流魚の放流後の経過月数と体長との関係

＊本報告は水産庁による平成１９年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である.